

活動レポート

エゾシカ研究会

文責：エゾシカ研究会代表 五十嵐敏彦

知床・斜里 春の現地視察報告

1. はじめに

今春、研究会として独立した当エゾシカ研究会では、かつてのエゾシカ分科会の時代から完全養鹿(=エゾシカの牧場飼育)による地域振興を提言してきました。数年前より実務者である“知床エゾシカファーム”の土田技術士をメンバーに迎え入れ、机上の空論からの脱却を目指し数度の現地視察を継続しています。今回は今春の視察結果を報告いたします。

2. 春の現地視察の概要

- ・日時 2012年4月25～26日
- ・場所
 - ①斜里町真鯉の“知床エゾシカファーム”
 - ②斜里町ウトロの“知床自然センター”
- ・視察者(五十音順)
 - 五十嵐敏彦・土田好起・船越元・細川康司
- ・対応者
 - ①(株)知床エゾシカファーム 富田社長
 - ②(公社)知床財団 増田事務局長
- ・背景：当研究会の研究テーマの一つである生体捕獲技術の低コスト化に向け、生体捕獲の現状を把握するためエゾシカの季節移動期(越冬地⇒夏季生息地移動の春)に合わせて現地視察を行った。



知床ファームでの討議

3. 視察内容の要点

3-1. 知床エゾシカファームの生体捕獲

ファームでは生体捕獲後の一時飼養を始めて6シーズン目に入り、冬季間に数箇所の捕獲施設から合計約440頭の生体を搬入した。また、近隣で行っている狩猟・駆除・調整捕獲の銃猟による捕殺体を受け入れ処理を行っている。



視察者に驚き走り回るファーム内のエゾシカの群れ

- 今シーズンまでに明らかとなった生体捕獲やシカ肉の生産・販売上での主な問題は以下の通り。
- ・狩猟期間外の駆除には産廃費用分(駆除したシカは原則、埋設・焼却処分)として自治体から報奨金が支払われる。捕獲証明は尾、耳、顎骨・歯など自治体によりバラバラで、重複申請を目当てに狩猟期に該当部位を冷凍保存し、駆除期間に換金部位を各自治体に持ち込む者もいるらしい。その結果、公表される狩猟・駆除数も不正確。
 - ・現在の囲い罠は材料費込みの設置費用が1箇所当たり300万円。しかし、エゾシカの学習能力により2～3年で捕獲効率が激減する。
 - ・捕獲個体は箱に入れトラックに載せて移動する。3～4時間の移動は問題ないが、長時間の移動やドライバーの腕が悪くシカが車酔いする状態では、生体へのダメージが大きい。状況によっては移動中に死亡する。

- ・コスト削減のため、道路や河川の維持管理で採取した野草をストックサイレージとして餌に利用したいが、採取される野草の種類(材質)が揃いで均質に発酵することができない。新たな技術開発が必要。
- ・シカ肉の需要は増えているが、単価が下がって売り上げが伸びない。なぜ下がったか？ 下がったから需要が伸びたのか、出荷が増えたから単価が下がったかを、検証する必要がある。
- ・食肉販売の裏にはヤミの部分もあるが、その混乱は肉質自体のランク付けや保障が遅れているため。特に、道やエゾシカ協会が進める処理場の認証(推奨制度)が肉質の保障には直結しないことが問題。
- ・さらに、肉質のランク付けと保障は、食肉生産組合内で足並みが揃わない。理由は組合内の地域性と業態の違いから、狩猟肉のみを扱う業者や雌雄比率の違いで統一基準作りに異論がある。
- ・また、提案されている肉質区分が豚・牛の基準を援用しており、これにも異論が出ている。

3-2. 知床エゾシカファームの処理状況

処理場は屠殺場と枝肉処理場に分けられ、いずれも衛生的に使用されている(道の衛生処理マニュアルに基づくエゾシカ協会の推奨施設で、シカ肉処理場の第1号を目指し、道のHACCP取得を申請中)。

特に、食肉自体の衛生検査は以下の手順で自主検査を行っている。

- ① 屠殺・解体当日の顧問獣医師による目視検査



当然ながら入室は常に消毒・防疫が必須

- ② 内臓物に異常があった場合の枝肉検査
- ③ 月一度の無作為抽出検体の細菌検査
- ④ 全頭の赤身肉を検体として保管(トレーサビリティ確保のため)



トレーサビリティを担保する機材

3-3. その他の主な視察結果

町のエゾシカ対策協議会の捕獲施設や知床自然センターの捕獲施設を視察した。センターの増田事務局長との懇談では、捕獲時のコスト削減を目指した『季節移動路上での捕獲案』(五十嵐私案)に対し、以下の指摘を受けた。

- ① 越冬地への集結時期に捕獲するほうが効率的
- ② 自然遺産区域外などの通常の可猟区では、一般の狩猟と重なる可能性が高くハンターとの調整を要する
- ③ 囲い罠のメリットは銃が制限される希少鳥類の保護等に優れた手法で、そのメリットが生かされない

などの短所がありあまり有効ではないとの批評を受けたが、日本国内では銃猟に比べて生体捕獲のほうが市民目線では受け入れられやすく、今後、より推進していく必要があるとの認識を伺った。

4. おわりに

このような見聞に基づき、当会では課題の解決に向けた研究を継続していますが、そのためには会員のみならず、広く技術士の皆様の智恵と経験が必要です。前掲の課題に関心と興味をお持ちの方、お力を是非お貸しください。なお、誌面での公表が難しい裏話やより詳細な視察結果を研究会資料としてまとめております。閲覧ご希望の方はご一報ください。